

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170100509		
法人名	有限会社 ヒューム		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	佐賀市金立町金立1844-3 (電話) 0952-71-8555		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20 年 10 月 8 日	評価確定日	平成 20 年 12 月 18 日

## 【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 4.3

### (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2 階建ての		1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年8月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひげドクターのお元気でクリニック・佐賀記念病院・はっとり歯科医院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に大きな庭園を持つ落ち着いたホームである。緑がホームをぐるりと囲み、四季折々の季節を味わうことのできる環境の下で、地域の住民と持ちつ持たれつの協力関係を保ちながらの生活をされている。理念を「みんな明るく元気に暮らせる。みんな一緒に助け合い自立を目指し暮らす。みんな笑顔で親切・丁寧・心が温まる」とされており、入居者・職員共に支えあいながらの生活をされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	特に前回の評価では改善点としては無かったが、廊下から居室が見えないように暖簾をつけるなど、更に具体的な改善がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者の考えを職員に話し、その考えに対して職員が意見を言い、自己評価をまとめられている。評価をすることで自分達を見つめなおす良い機会にされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、地域の住民と職員、家族、連携機関が顔見知りになる良い機会ととらえ、積極的に取り組まれている。会議の内容もホーム・地域の双方から相談報告がされており、内容については家族に議事録を配布されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、家族からの意見が出たときは職員同士で話し合い、その結果を家族へ報告されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の掃除・草取り、老人会や地域の行事には参加し、ホームでの夏祭りには地域の方に声を掛け参加してもらうなど、積極的に交流されている。また、行事以外でも地域の方と日常的に野菜等のやりとりもされ連携は盛んである。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中の「みんな」とは入居者・家族・職員・地域の方全員を含んでいる。理念については、外部評価の度に分かりやすい表現になるように、運営推進会議で検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が目につく玄関・事務所・居間に掲示され、生活の中でいつでも見て確認することのできる環境にされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や老人会の会合、地域開催のお祭りに参加したり、また、ホームでの行事に地域の方が来られたりと交流を盛んにされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価をすることで、見直しの意識付けをし、自分達を見直すよい機会にされている。また、月に1回のミーティング時に評価の意味を考える機会をつくられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会の同日に運営推進会議をするなどして、たくさんの参加者で会議を行なう工夫をされている。また、家族に会議の議事録を配布するなどし、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの職員の協力で公共施設を無料で利用できるなど、市町村との交流も非常に合理的で理想的な交流をされている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族には、毎月入居者の状況を記入した文章と、2ヶ月に1回は写真付きのホーム便りで報告し、来荘の際にも報告をされている。急な連絡事項は電話連絡をされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、家族からの意見が出たときは職員同士で話し合い、その結果を家族へ報告されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>申し送り引継ぎが十分にできるよう、離職をする職員と新職員を2週間程度重ねて採用し、入居者に対してなじみの関係をつくる時間を設けている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は職員を交代で参加させ、研修を受けた職員が引き継ぎ伝達を行なうようにしている。将来的には職員が、研究発表等が出来るように、向上心をもって取り組まれている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣にある宅老所や他のグループホームへ訪問するなどの交流を持たれている。また研修や会合の場で職員同士での交流も盛んにされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前に本人、家族と一緒に来荘してもらい、日中と一緒に過ごすことでホームの雰囲気を感じてもらい、時間をかけ、納得された上で入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、買い物、畑の野菜、縫い物、掃除の仕方など学び支えあう関係を作り、入居者の喜怒哀楽を共にするなど、入居者の気持ちを共有できるようにされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が希望することはできるだけ実施し、本人の意向に沿うようにしている。できないことは家族に問いかけ本人の意向を尊重するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画の前にアセスメントをし、それをもとにプランの原案を立て、家族、職員との話し合いをした上で決定をされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状況に変化があった場合は、随時見直しをするとともに、3ヶ月～6ヶ月で定期的に計画を見直し、修正をされている。また、主治医の意見を聞き見直しをされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の意向はできる範囲で柔軟に支援し、できないときは家族会・運営推進会議の折に相談し、可能な限り要望に応じるようにされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じて、訪問診療での対応もしている。また、主治医・家族・職員の他、必要があれば他の医療機関の連携にも努められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に重度化の対応については、家族に文章で説明し、同意をとられている。また、終末期のあり方や指針について家族会でも話し合いがなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の保護に努め、情報が漏れないように気をつけられ、トイレや入浴の際の細かい配慮もなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に添えるように対応されている。本人のペースに合わせた過ごし方や、入居者が平等になるような心遣いもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と献立を考え、買い物に行き、準備、片付けまで一緒にされている。誕生日には個人の好きなメニューにするなど、一人ひとりの好みや楽しみにも配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝の10時から浴槽には湯を張り、入居者の都合で好きに入浴することができるようにされている。また、拒否があっても無理はせずタイミングを見計らい誘われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の入居前の生活を継続して活かし、日々の暮らしの中で一人ひとりの役割と楽しみを持たれている。気分転換に日常的にドライブなども行かれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、行きたい場所は行くようにされている。散歩にも頻繁に行き、月に1回は洋服などのショッピングにも行かれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることはしていない。急に屋外に出られる方には同行して散歩をするなどし、職員が常に所在確認を行なうようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回(1回は夜間・1回は日中想定)火災・地震・水害訓練を行なっている。地域3ヶ所に災害の際に自動通報が行くようになっており、その地域住民と消防と協力して実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックは記録されており、入居者に応じた食事を提供されている。食事内容も栄養士の職員が計算をして栄養バランスにも心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光がきつい場所は障子やカーテンをされ、空間の中に椅子を設けて会話など興じることができる。季節感のあるものを廊下や居間に飾られている。臭いに対する配慮もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ち込み、使い慣れた好みの物にかこまれ生活されている。本人が安心して生活できるように家族と相談しながら、居心地の良い場所を提供されている。		